

光の子



No.85 1999. 12. 25.

● 神の召しに応える（ヘブライ人への手紙第5章4節）

クリスマスの祝福が豊かにありますよう

お祈り申し上げます

社会福祉法人 光の子どもの家



「クリスマス」

え・中島英子

「光より光へ」

光より光へ櫓を飛ばしけり

雪炎えて愛のシユプール突進す

櫓の鈴星をあつめて高鳴らす

火の見あり土手あり空つ風があり

歳晩の夢のつまりし袋かな

クリスマスイヴの愛の灯いのちの灯

初日記十五年目の一ページ

落合水尾（『浮野』主宰）

私たちのクリスマス

ヨハネの第一の手紙 第4章9～10節

神は独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きようになるためです。ここに、神の愛が私たちのうちに示されました。
わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償う
いけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。

竹花 信恵

クリスマスおめでとーございます。
光の子どもの家では、十五回目の
クリスマスを迎えます。

三歳だった子どもが、十八歳にな
るといふ、その月日の中で、それぞ
れの年のクリスマスの思い出を重ね
てきました。

スタイル自体は、変わりません。
子どもたちが直接お世話になってい
る方々をお招きして、「劇」として
ではなく、私たちの出来る「礼拝」
としてのページェント、その後、祝
会の二部構成です。

ページェントⅡ生誕劇は、キリス
トのお生まれになったときの状況を、
歌に合わせて身振り手振り、そして、
視線で表現します。毎年、その「役」
の予想と、期待と不安がいろいろ混ざり、
メンバーが定まらず、日は迫り、最
後のぎりぎりになってかたちをなす。
ひたすら、本番に強くなることを身
につけています。

真っ白い衣装に身を包み、そこに
いるだけで天使になる可愛い幼児、
出来るだけ目立ちたく、何でもやり
たい小学生だけではなく、半数を占
めるのは、思春期真っ直中の中・高
生です。

そして、クリスマスといえばケー
キとプレゼントしか知らなかった職
員も、大人も子どもも全員参加。何

があってもその年のクリスマスにな
ります。

これまでの何回かのこの季節には、
まさに、クリスマスを準備する頃
になると、何か思いがけないこと・
それも起きて欲しくないようなこと
が起こりました。

共に揃うはずの、一人、ふたりが
欠けた食卓、「ヨセフ」の姿がなく、
「三人の博士」が揃わず、トラブル
の対応に大人は追われる・・・。
だからこそ、共に、みんなの笑顔
に包まれた、暖かいクリスマスとな
ることが出来たときの喜びは大きい
ものでした。

「渋谷とか、行つてさ、大きいキ
ラキラのツリー見に行きたいね」
「友だちとパーティやるんだけどな」
そんな年頃の子どもたちと一緒に迎
える「光の子どもの家のクリスマス」
の意味を、毎年自分自身に問いかけ、
考え続けます。

暗闇の中に「光」が来てくださつ
た。最も低いところ、最も暗いところ
に。寒くてたまらない、どうしよ
うもないところに。

集められた、たくさんの心とお励
ましのおかげさまで、クリスマス・
ディナーをいただく。ケーキもクツ
キーもある。サンタクロースに至つ
ては、何と「ホンモノ」が、真夜中

に現れます。たくさんのプレゼント
をもって。それらの全てが、メッセー
ジを伝える手段となります。

ひとり一人が、神さまに愛され、
かけがえのない、守られている存在
であることを。勝手に生きているの
ではなく、生かされていることを。
そして、私も、あなたと出会えたこ
とを喜びうれしく思っているという
ことを。そんな、生活を共にしなが
ら、人生を重ね合わせて伝えたいと
願っているすべてのことを。この季
節だから子どもたちの心に、思いに
届くだろうと希望を持たされて。

この年のクリスマスの祝福が豊か
にありますように。そして、新しい
年が、皆さまにとって良い年であり
ますように。



彫刻家 中島 陸雄

「まるで、行方不明になっていた
自分の子どもと再会したような感じ
だったよ。」とY君に話したら「そ
んな子どもがいたの?」と、ふざけ
てY君は私に聞き返した。

実は、子どもに面会したのではな
く、私が十年以上も前に描いた絵に、
偶然出会ったという訳である。

以前にもこんなことはあった。駅
前のレストランに入ったら、私の絵
が掛けてあったのだ。懐かしい椿の
絵だった。しかし、このお店にこの
絵がかかっている経緯は、すぐに見
当がついた。私が絵をさし上げたA
さんとお店は親戚なのである。
したがって、Aさんからこのお店に
渡ったのであろう。簡単な図式であ
る。

ところが、今度の出会いは、全く
そのルートがわからない。謎である。
或る夏の一日、私は、家内と二人
で水戸のあたりに行った。その帰り
道、空腹をおさえながら茨城県の古
河市近くまでやって来た。左側にレ
ストランがあった。何でも食べられ
ればいいや、くらいの気持ちで入っ
てみた。私はテンドーロインステー

キ、家内はグラタンを注文した。ジュ
ー音のするステーキが運ばれて
きて、それを一口食べてみると、こ
れが、実にうまいのである。家内も
グラタンを一口、口にすると否や
「これはおいしいね。全然期待して
いなかったけど、おいしい。」と、
思わず嬉しそうに言った。後から運
ばれてきたアイスクリームときたら、
又々素晴らしいのである。器がよい、
きれいな盛りつけ、味も上々、すつ
かり気に入ってしまった。

こんなことがあってから、私たち
は何回もこの店に足を運んだ。そし
てその都度、満足して帰って来た。

或る時、いつものテーブルに先客
がいたので別なテーブルに着いた時、
「あれ?どこかで見たような絵ね。」
と家内が言った。後ろを振り向いて
みると、一番奥の壁に掛かっている
絵が、私の好みの構図なのである。
絵の下で食べていたお客が立ち去る
のを待って、私はそっとその絵に近
寄って確かめてみた。思わず「あつ!」
と叫んでしまった。まさしくこれは
私の絵だ。葉書位の大きさの銅版画
である。昔ギリシアに旅行したとき

に立ち寄ったロードス島の風景であ
る。白大理石でつくられた古代の神
殿が、三本の柱と屋根の一部だけを
残している。私は何とも言えない美
しさと歴史の深さを感じたのであつ
た。絵の下には、癖のある私のサイ
ンも入っている。

それにしても、どうしてこの絵が
この店にあるのだろう。わからなかつ
た。もち論売れた絵ではない。何か
のお祝いの時にさし上げたもので、
五〇枚程刷った作品の中の一枚であ
る。苦勞して刷った記憶があるので、
余計に懐かしい。

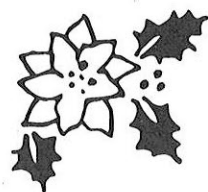
この店のたたずまいが落ち着いて
いることと、料理がおいしいのに加
えて、自分の分身のような絵が掛かっ
ていることで、この店には何度も何
度も通った。

こんないきさつを人に話すと、み
んなその経緯をいろいろと推理して
くれた。「そりゃあ簡単だよ。お祝
いにこの絵をもらった人が店の主人
と知り合いで、プレゼントしたんだ
ろう?」この説は最も一般的で、考
え得る説であろうと私も思った。
しかし別な推理も出された。「こ

の店の主人が友だちの家に行った。
そこで素晴らしい絵に出会った。ど
うしても欲しくてたまらなくなった。
友だちは絶対に手離さないと言う。
そこを無理に頼み込んで手に入れ、
壁に掛けた。これしかないよ。」私
は、このような心にもないことを言っ
てふざける人が好きである。

しかし悲しいかな、家内の推理が
最も正しいような気がするのである。
「お祝いで絵をもらった人が、その
絵の下手さにあきれ、燃えないゴミ
と一緒に捨てた。そこへ通りかかっ
た人がおや、絵はいずれにしても額
縁は使えそうだといって拾う。そう
だ、友だちの店にと思いついて、ほ
こりを払って持っていった。お店の
方では友だちの厚意を無にするわけ
にもいかず壁に掛けたが、取り替え
るのが面倒なのでそのまま。これが
正解じゃないかしら・・・。」実際そ
れが一番近いかも。

私の家内はなか
なかにスルドイの
である。



ここ七、八年の私の読書の癖は誠に荒っぽいものである。おおよそ、日曜の朝日新聞に掲載される読書欄や、これも朝日新聞社刊行の「論座」に掲載される新聞や月刊誌の書評のタイトルを集めたページから、面白そうなものをメモに書きためておく。

二冊の本

山形大学医学部

教授 仙道 富士郎

普通の人なら多分、書き出したものをその都度こまめに本屋に注文するに違いない。ところが私と来たら、一〇冊以上になるくらいまで注文せずに、メモに書き込んだまま放っておくのだ。二、三ヶ月、長い時は多分半年近くもそのままな筈である。とりたててもものぐさという訳でもなく、やり残している仕事などは、いつも気にしている性格である。おそらく、その都度本を注文する心理的な余裕がないのだろうと思う。いつも何かに追いかけてられているような気持ちの今日この頃である。

一〇冊以上の本が殆ど一、二週間以内で到着した時は忙しい。どうい

う訳かまず「あとがき」から読む癖がある。ひとあたり「あとがき」に目を通して、面白そうなものから読んでいく。しかし、当然ながら、「あとがき」は必ずしも全体を指し示すわけでもなく、始めから読み始めると妙に凝った表現が目について、やけに難しい理論だったりして、1/5も読まないうちに放り出してしまふことが誠に多い。若い時のように、難しくて読破するといった気概は既がない。作者の気取りや、饒舌につきあっている暇などないのだと言わんばかりに、バツバツと途中で読み捨ててしまう。それにしても、読書欄の選者の評はかなりいい加減のような気がしてならない。本当にしっかりと読んでから批評しているのだろうか。どうも怪しい。

ところが、今回は大変な「あたり」であった。立场上、大学論に関する一冊は「ふむふむ、こんなものかな」と読み終わり、ベストセラーの「老人力」も、まさに自分のことが書かれてあるようで、笑っているうちに読んでしまった。作者たちには悪いが、これら2冊はどういうことになった。後の2冊に、久しぶりに私は釘付けにされてしまったのだ。その一冊は、野田正彰著「戦争と罪責」である。著者は北大医学部の後輩で、

大学時代から学生運動の論客であった。さぞ難しい理屈が展開されているのだろうと恐る恐るページをめくっていた。しかし、私の嫌な予感は見事にうち砕かれ、殆ど徹夜して読み上げてしまった。それは第二次世界大戦参戦者たちからの聞き取りが基本をなしており、苦渋に満ちた各々の者たちの口から吐き出される事実は、遠い昔の事などとは到底言えない、吐き気をも誘導するような事実であった。特に、軍医の実習として行われていた生体解剖の場面の描写は、医師免許を持っている者として、内容が理解可能なだけに、殆ど金縛りにでもあったような気分を味合わせられた。そして、若い軍医たちが次第に生体解剖に慣れていく様を見ていると、状況次第では自分だってこのようになりかねないという恐れが、私を襲った。著者は、わが国の人々が、未だに自己の問題としてこれらの罪を引き受けていないと糾弾し、それを感情麻痺の状態と呼んでいる。そして多発する教室崩壊の遠因を、大人たちのこの感情麻痺に求めている。

もう一冊の本は、堂園晴彦著「それぞれの風景」である。長年、癌患者の治療に携わり、ホスピスを開院するに至った一人の医師の筆による

この本には、前者とは対照的に、人はこんなにも優しくなれるのかと、何度も涙させられてしまった。自分も末期の癌患者でありながら、病状の悪くなった癌患者の様態を心から心配することの出来る者たちの姿に、強く心を惹かれた。そして、余りにも力んで癌と対応してきたと末期になっても反省し、私は無学で誰の作か知らないが、「小さきは小さきままに、折れたるは折れたるままに、コスモスの花」と記し、死を迎えいく人を見ると、人間は何と雄々しい事よと思う。著者は言う。「人は生きてきたように死んでいく」と。

生体解剖するも人間であり、優しい心で死を迎えるのも人間なのである。二冊の本を読み終えて、今、感情麻痺から覚めなければと思い始めている自分を見る。



2つの文化に生きる

19

日本キリスト教団東大宮教会

バーガー 京子

腕をふるって参加しました。すばらしい劇も見せてもらいました。あの有名なイギリスの作家チャールズ・ディケンズの「クリスマスキャロル」です。キャストはアメリカンスクールの小学生から高校生の有志たちでしたが、シンプルで実に良くできていました。

年老いた、物質主義の抜け目のない商売人のスクルージ。周りの人々が彼に「メリークリスマス！」と声をかけても、「ふん、クリスマスなんて、ばかばかしい！」と言い返していました。ところが、クリスマスイヴの夜に、すでに他界した友人の亡霊を見ることが始まって、過去、現在、未来の3人のクリスマス・スピリット（クリスマススの霊）たちがスクルージを導き、彼の人生を振り返らせませす。未来のスピリットに導かれて見た自分は誰からも愛されない人、死んでも誰からも惜しまれない、それどころか自分の死を通してかえって喜んでる人がいることを知り、それまでの自分について、また人間について深く考えさせられます。その時、彼が思ったことは悔い改めたい、何とかしたい、今からでも遅くはないだろうか、という焦りに気持ちでした。夜が明けて、目がさめた時、スクルージは自分がまだ

生きていることに心から感謝しました。そして彼が真っ先にしたことは「与えること」でした。人にとっているものを与えること。今まで挨拶をしたことのない人と挨拶を交わして相手のことを気づかうこと。クリスマススピリットたちに導きでスクルージは完全に一八〇度向きを変えて、愛と喜びでいっぱいになった。そして、心から「メリークリスマス！」と言って友人たちと言葉を交わし合ったのです。

一八〇度の転換。これがクリスマスキャロルの話の一番面白いところ。昨日まで意地悪で何の魅力もないおじいさんだった人が今日、突然、愛で一杯に満たされた素敵な一人の人間に変えられたのです。「いやあ、そんなこと小説の中だから出来ることであって、実際にはねえ。」と言う言葉がどこからともなく返ってきたのですが、この人間世界で実際に可能だからびっくりしてしまいました。

十月に亡くなられた三浦綾子さんの著書『風はいずこより』の中にも一八〇度の転換のことが書かれています。

『人が本当に信頼を回復するためには謝罪が必要です。そしてその根本に、まず神への謝罪がなければな

らないと思うのです。誰がゆるしてくれなくても、神だけは間違いないゆるしてくださる。しかも一分一厘も残さず、全くゆるしてくださる。その上そのゆるし方は、お金が必要でもなければ、善行が必要でもないのです。ただ、今まで歩いていた方向を、転換すればよいのです。(中略)・神は、「何だ、今頃ようやくこつちを見たのか」などとはおっしゃいません。「ああ、よく気がついてくれた」と、大手を広げて私たちを抱きよせてくれるのです。「あなたのすべての罪を、この十字架にかけてしまった。あなたは全く無罪なのだ。そのことを信ずるか」と、キリストは言われるでしょう。私たちはその言葉を信じ、感謝すればよいのです。」

二〇〇〇年前にイエスさまが私たちを救うためにこの世に来られたということはこんな素敵なグッドニュースを私たちに届けるためだったのです。

クリスマス、心からおめでとう！



☆ ☆ ☆
クリスマスに

高一 萌季

待ちに待ったクリスマスです。デパートに行くクリスマスグッズがたくさん並んであった。小さい頃のクリスマスは、サンタクロースに夢で会いました。今は、本当のクリスマスを実感したい。クリスマスは、イエスキリストの降誕日を祝う日なのである。

友だちとクリスマスを過ごすのが一番だと思っていたが、やっぱり家でのクリスマスが最高だと思う。今年のクリスマスはどんなだろうか、楽しさ一杯である。

今年はいろいろありました。数え切れないほどの罪もあり、本当に神さまに謝らなくては、ならない。神さまは、わたしたちの罪のために十字架にかかってくださったんだから。自分はなぜバカなんだろうと思う。でも、きつと神さまが守って下さる。私の夢は、日本のことよりも、世界という視点での働きが出来ることだ。そうなりたいと思う。なれるように頑張りたい。

私は歌うのも好きである。ハッピーなクリスマスが迎えられますように。グロリア！ハレルヤ！
そして、ありがとう！神さま。

☆ ☆ ☆
クリスマス

高三 潔

下校時に、校門から自転車で少し走ると、もうそこは、明るいキラキラの飾り付けられた、いつもより一層賑やかな『クリスマス』の街だ。

クリスマスは神さまがイエスさまをこの世におつかわしになった日である。馬小屋という汚い場所です生まれるが、偉大な存在になるのだ。

私たちの習慣の中に、赤ちゃんが産まれたといつて拝むようなことはない。でも、イエスさまはどういうわけか拝まれたという。一番みずばらしく、身分的に低い羊飼いや、はるか東方の国から博士たちが貢ぎ物をもって拝みに来たのだ。生まれたそのことがその時にすぐ偉大な存在だったという。赤ちゃんが偉大な存在ということとは普通ではない。

イエス・キリストは私たちの勝手な思いや自分のことだけしか考えられない罪のために殺されるという変わった生涯を送った。しかし、彼は神によって復活したという。よく解らないが、神さまはこの世に必要なから蘇らせたのだろう。
普通、人々は神さまがいるなどと思いはしない。私もそうだ。しかし、何故こんなにクリスマスを祝う人が

いるのだろうか考慮に値する。クリスマスがあるから神もいるのではと思えてくる。

神さまは多分いるだろうなどという軽い考えではなく、必ず、絶対いるという思いを持ちたいと思う。

神がないなら、この世界も人間も存在しないと思えるから。



☆ ☆ ☆
メリー クリスマス

小四 由花

サンタさんの来る日が待ち遠しい。絶対来てくれるようにお祈りをします。アドヴェントカレンダーの二四の日が楽しみです。

今年も家の中をクリスマスの飾りで明るくしてあげて、サンタさんと会ってプレゼントをもらいたいです。今年もいいクリスマスになりそうな気がしてきました。

☆ ☆ ☆
クリスマス

中三 悠子

私は、クリスマスが近づいてくると、嬉しくなります。一年間の中で一番好きな行事といってもいいくらいです。

二四日に行われるキャンドルサーヴィス。美味しいいちごのクリスマスデイナーをいただいた後、クリスマスメッセージを大人へ子どもから、子どもへ大人から贈り合います。少し照れますけど、自分の思ったことをいうのは、大切なことだと思います。もちろん素敵な讃美歌や聖書等などたくさんあります。

二五日の朝、枕元にプレゼントが置いてあります。包み紙を開けるのが、とっても楽しみです。でも、この日はイエスさまのおいでになった日です。私はそんなことは考えたことなかったで、今年からは、イエスさまに「お誕生日おめでとうございます。」と一番にいいたいです。そして、この日の夕方には、たくさんのお友だちやお客様をお迎えして、ページェントがあります。イエスさまがお生まれになったときのことを歌や身振りそして聖書朗読などの劇で表すのは、とてもわかりやすくていいと思います。全く判らない人だっ

☆ ☆ ☆
クリスマス

高二 将司

て、「クリスマスってこういう日なんだ。」とか「イエスさまが生まれるまで、こんなに大変なことがあったのか。」などと思ってくれる人がいると思います。

今年のクリスマスは出足が遅い。なんだかアドヴェントのような気にならないで二週間も過ぎてしまった。その原因はみんな解っている。ページェントの配役が発表されていないからだ。総監督が忙しくていつも家にいないようだ。だから、何となくそんな気にならないんだ。

でも、大丈夫。みんなちゃんとできるんだよ。何回もやっているし、心や体の一部になってしまっているんだから。さあ、いよいよだ！

☆ ☆ ☆
クリスマスについて

中二 福子

クリスマスが来ると今年も終わりのような気分になる。

でも、今年のクリスマスこそ絶対楽しくしたいです。だって、来年は高校受験なんですから。悔いのないようにいいクリスマスにしたい。

☆ ☆ ☆
クリスマスについて

小六 詩美

どうやってクリスマスという名前になったのかと思うと、ちょっと知りたいです。

もみの木やリースもある意味で不明です。クリスマスのことで私が知っているのは、イエスさまが馬小屋でお生まれになった日が十二月二十五日なのでクリスマスが始まったということぐらいです。

私たち子どもにとってクリスマスは嬉しい日です。楽しみは、アドヴェントカレンダーをめくると、サンタクロースからプレゼントがもらえることです。

毎日こういうのがあったらいいのになあと、私は思います。

☆ ☆ ☆
クリスマス

高一 亜紀

毎年毎年やって来るクリスマスが私は大好きで楽しみにしています。クリスマスとは、イエスさまのお生まれを喜んで祝う日です。

だから私たちの家では、おめでとうという思いを込めてページェントなどをして祝いし、楽しく過ごします。

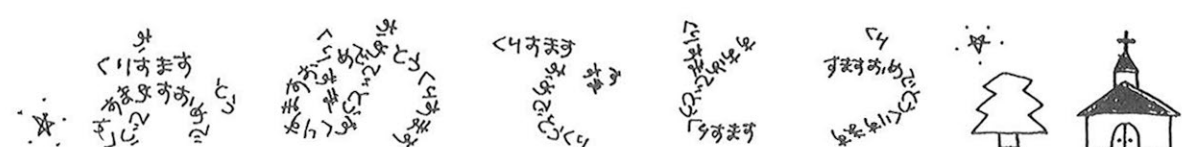
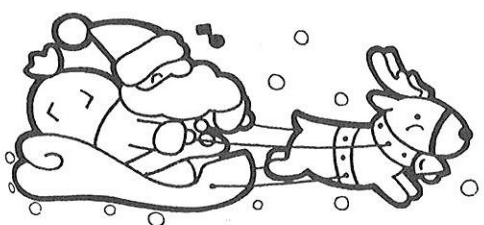
イエスさまは神さまなのに生まれ

☆ ☆ ☆
メリークリスマス！

馬小屋で生まれることはとてもかわいそうなのですが、もし、イエスさまがそこで生まれなかったら、クリスマスなんかなかったらと思ういます。

馬小屋で神さまが生まれるなんて、とてもすごいです。

だから、みんなで毎日イエスさまにお祈りをしてください、私もしますから。



プ・リ・ズ・ム

子どもたちの季節 仙道家

クリスマスおめでとうございます。今年も子どもたちと共にクリスマスを迎えられることを嬉しく思います。十一月半ば、仙道家に新しい仲間がやってきました正木梨江ちゃん、もうすぐ3歳です。

梨江ちゃんが仙道家にやってくる前、梨江ちゃんがいる乳児院に会いに行きました。私と十一月に就任したばかりの新人指導員中川さんと初めて会った梨江ちゃんは、乳児院の先生にしがみつき固い表情。やがて泣き出しました。

今度、乳児院から光の子どもの家に行くこと知っているから不安なのでしょうか、その後他の子どもたちも一緒に遊ぶが梨江ちゃんは、なかなか私たちには近づいてきません。

結局私が彼女と言葉を交わしたのはほんの少しでした。でも、環境が変わることに不安を感じ表現してくれたことにはっとしました。

二度目は、四歳の裕くんと同じグループとなる小学四年生の由花ちゃん

と一緒に会いに行きました。さすがに子ども同士、由花ちゃんとはすぐにうちとけ楽しそうに遊んでいます。

そしていよいよ梨江ちゃんが両親とやってきました。そこには乳児院での元気な姿はなく、不安で一杯で、母にしがみつき、小さくなっていた。両親は十時過ぎまで梨江ちゃんと添い寝をしてから帰っていきました。

その日から、梨江ちゃんは、小さな体で不安を表現しました。食事を摂らないことで、着替えをしないことで、歯磨きを何回もすること、と、いろいろなことで表現しました。そんな梨江ちゃんを子どもたちは、かわいがり、受け入れ、見守ってくれました。梨江ちゃんも少しずつ、食事を摂るようになり、着替えるようになりと、慣れてきました。

寝食を共にすることの大切さや偉大な力を改めて感じました。これからも変化するだろう梨江ちゃんを見守り、一緒に歩んでいきたいと思えます。

池田 祐子

原田家日記

クリスマスおめでとうございます。この年のお支えを心から感謝いたします。

「神さま、どうかみんなが幸せになりますように。そのことのためにゆるされる限り力になることが出来ますように。」

私は時々、小学二年生の佳美から、こっそり手紙をもらうことがあります。内容は、『木部さんのこと好きだよ。ふたりのひみつだよ。』というとても短い手紙です。

親から愛されなくても、人を好きだと思えるのだなあと思いがち、もしかするとそうやって自分を支えているとも思えます。

私にとってこの手紙は、大切なご褒美なのですが、何か必死に訴えかけられているようで、心が傷みました。私のこと嫌いじゃないでしょ？見捨てないでね。と聞こえてくるような気がします。

私は彼女とずっといてあげることが出来ません。大丈夫だといってあ

げられません。約束することが出来ないのです。

私が幼かった頃、毎日の遊びが楽しくて、とても熱中して遊んだことを憶えています。今思えば、誰にも裏切られないという深い安堵感に包まれ、余計な心配などいらなかった時間でした。

子どもは、そういった生活空間の中で、さまざまなことを学び、感じ、育まれていくのだらうと思います。

それを奪われてしまった子どもたちに、代わりとなるものを提供し、補うのが私たちの仕事だと思っていますが、ただ、ただ生活が流れていつているような気がしてなりません。

もうすぐクリスマスがやってきます。神さまは、ずっと見捨てたりしないから大丈夫だよ、といい聞かせながら、待ちに待ったクリスマスをお大切に迎えたいと思っています。

木部 すなお



光の中で

佐藤家

この年のお励ましありがとうございます。皆さまの上にクリスマス豊かな祝福をお祈りいたします。木枯らしが吹き、寂しい風景が広がる季節です。落ち葉を集め、焚き火をする姿が、しばしば見られます。

高一、小一、年長の男子、それにこの四月にやってきた三歳の女の子の四人を担当してこの年も暮れていきます。

二ヶ月に一度の割合で児童精神科の菅野先生が来てくださり、子どもたちと面談して、私たちの関わりのアドヴァイスをしてくださいます。幼稚園年長組の完二は、注意欠陥多動性障害の疑いがあるといわれました。いつも落ち着かず、じっとしていられません。食事中、足を絶えずぶらぶらさせたり、立ち歩いたりしまうことが多くあります。とにかく動いていることの方が多いのです。言葉の遅れも心配です。不明瞭でタ行サ行の発音が同じです。最近、ようやくやく三〇まで数えられるようになりました。

叱らず誉めることが肝要だといわれました。私は気が長い方ではないので比較したりすると、遅れている

のでは、とか、もっと早くとか焦ってしまいます。だから、障害という目で見るとは、特性、特徴なのだという見方をすると、可愛くなってきました。そして完二は完二の速度で成長しているんだ、と認めていこうと思っています。案外、多動傾向のある子どもは一般の家庭にも多くいるのだらうと思っている今日この頃です。

神田 幸枝



河のほとり

倉沢家

六月の末から無断で家を出てしまいい、友だちの家を転々としながら、九月のはじめに帰ってきた男。高校は続けた方がいい・と説得したが、本人の意志が固くとうとう中退してしまつた。ただでさえ就職難の世の中、高校中退、一八歳未満が障害となつた。

牧場で働きたい・という本人の希望に添うよう職員の友人知人にも声をかけ探した結果、北海道の浜中町に農業研修センターがあり、受け入れてもらえそうだという情報を得て、早速連絡をとり手続を行った。

幸い勇を受け入れて下さる農家が見つかり、九月の末北海道で面接を受けることになった。とりあえず仕事をしてみたいということになり、翌日から酪農家に住み込んで、彼の新しい人生が始まった。夜更かしをし、朝起きることさえ出来なかった彼に農家での仕事が務まるだらうかと誰もが心配した。

一週間後、休みがなくて辛い、という電話があった。それから二週間後、仕事にも大分慣れ、四時半に自分で起きられるようになった、と元気な声で電話があった。そしてその

一週間後、彼から担当者宛にお菓子が届いた。北海道産の小豆が一杯つまつた最中だった。宅配便の宛名を見たとき、勇から私に？と目を疑った。彼にとつてはただのささいなだけで、何もしてあげることが出来ない担当者だった私に？。嬉しかった！みんなに大きな声で「勇から私に荷物が届いたよ！」と、知らせたいほど嬉しかった。クリスマスには少し早い、今年一番のクリスマスプレゼントだったと思っている。中味はどうでも、勇が私を覚え、送ろうと思ってくれたその気持ちが、私に何よりも大きなクリスマスプレゼントになった。

倉沢 智子



光の子たちと ⑫

メリークリスマス！

今年もクリスマスがやってきます。子どもたちにとってクリスマスは特別な日。もちろん、大人にとっても特別。光の子どもの家でも、教会でもイエスさまの誕生を待つ準備が始まりました。

第一アドヴェントの日、幼稚園、小学校の礼拝に出ました。いつもの礼拝ではわざわざとして注意されることも多い子どもたち。でもこの日はちよつと違いました。

山ノ下悦子先生の「あけましておめでとうございます」で始まったその日の説教、みんなはその一言に引き込まれたようでした。珍しくシンとした中、説教に聞き人つてました。その日の夕方、光の子どもの家のアドヴェントのメッセンジャーは、穴水指導員でした。これもまた、いつもと違うみんな。おしゃべりする子やフラフラと遊んでいる子はいないようでした。

「アドヴェントってなあに」と尋ねると、「クッキー」とか「ごちそう！」と答える子どもたちですが、第一アドヴェント、第二アドヴェン

ト、第三アドヴェント、第四アドヴェントと一本ずつローソクが増えて点き、夕食会の時に食べるクッキーが一つずつ増えていき、一日一つアドヴェントカレンダーの窓を開けていく、そんなクリスマスの迎え方に何か特別なものを感じているのだろうかと思えます。

私も光の子どもの家に来るまでは、街の中のイルミネーションや、学校のチャペルの前のクリスマスツリーなどからクリスマスの雰囲気に入り、幼い頃は家族と、学生の頃は友人とクリスマスの当日だけパーティを開く、そんな過ごし方をしていました。そうではなく、一ヶ月以上も前から準備を始めることと、その意味を知ること、全く違ったクリスマスを迎えることが出来るようになったことをとても嬉しく思います。

以前に光の子どもの家の保母をしていた方に、「子どもたちと過ごすクリスマスは、恋人と過ごすクリスマスよりも、仲間と大騒ぎするクリスマスよりも、きつと心あたたまる最高のものになりますよ」と、就職して間もなく言われたことがありま

す。今、本当にその通りだなと感じています。

光の子どもの家では、君に出会えて良かった！と、何回も確認する機会を持つことで、子どもたちの下がりがないセルフイメージのアップをはかりたいということで、一人に二回以上誕生会をする習慣があります。一度はそれぞれの子どもの家での、お友だちや家族を招いての毎年の誕生パーティ、もう一度は光の子どもの家のメンバー全員でその月の誕生会をお祝いするパーティです。

後者の方では、誕生会を中心としたゲームや、誕生会クイズなどをして楽しみます。

ただ、十二月の誕生会だけはそれと異なり、特別なお祝いの仕方をしてきました。

同じ月に生まれたイエスさまと一緒に、クリスマスの祝会でお祝いをしてきたのです。そんなわけで、十二月生の詩美ちゃんはこれまで、十二月の誕生会で誕生会中心のゲームやクイズなどをしてもらった経験がありませんでした。

十一月の誕生会での誕生会クイズ

養護メモ 80

専門家ではなかった

菅原 哲男

クリスマスを待つこの季節になると何か心が浮き立つのは、十代の終わり頃、どちらかといえば熱情がまさり、また、自分で自分がどうにもならないものであることを嫌というほど経験しつつあったことも味方して、キリスト教徒になったからだけなのだろうか。教会に入りました年々だけでは不足はしないが、自分で自分をどうすることも出来ない無力や愚かさにはあつていない。

そんなわけで門前の小僧ならぬ教会で居眠りしていたおかげで聖書に描かれているイエスのことや使徒たちのことなどは少しく血肉となっているのだろう。

過日、日本子どもの虐待防止研究会・栃木大会のシンポジストで発言の機会を与えられた。そのシンポジウムは二日目で、前夜に先輩や友人などと深夜まで議論しながらやりあい完璧に不調を極めていた。発言は二番目で、用意していたペーパーに目をやったが何から話をするのかも思い出せない始末だった。私の前の発言者が施設の生活の中での活動の報告が殆どだったこともあり、用意

していた事例は後にして、光の子どもの家の暮らしの概要を説明していたら時間をオーバーした。

しかし、児童養護施設を利用しなければならぬ全ての子どもたちは被虐待児であり、児童養護施設の基本的な課題は、共に暮らす大人がいて伴走する者であり続けること、絶対受容を目標に丁寧に関わることで、子どもが本来持っている治癒力を待つこと、医師や心理職はその治癒力を促し補い助けるもので、私たちがそれらをよりよく利用できるよう子どもに提供するべきものである。私は専門家になろうとは思わないことなどを報告したのだった。

物足りなさもあったが、まあいいか、と自分に言い聞かせていた。すると、顔見知りの児童養護施設の施設長が立って、この会議は科学的ではないし専門的な話がない、と嘆かれ、ご自分の施設で如何に科学的に子どもたちを買い物に行かせたり、専門的な交代勤務の中に担当者を混ぜて関わり始めたら子どもたちが落ち着きだしたか・等などの科学的で専門的なお話を長々された。

取り合う気分にもなれないで、不愉快を抱えてその会合は終わった。

このところ、親が、実の子どもに暴力を加え、無視し、大嫌いだ等と関わりを拒否し、時には死に至るような事例が多発している。多発しているというのが正しいのかどうかは、現在と同じ尺度でのそれ以前の統計がないから判然としないが、昨年の虐待死は四十一例に上っているという。何とも痛ましい限りである。児童相談所に相談した後に虐待死に至った事例も数件あるから無念も募る。

そこで、厚生省は心理職を児童養護施設に配置することや箱庭療法を導入するなど対応に追われている。

しかし、児童養護施設の基本的なスタンスは子どもと家族として暮らすことであることは、この時代でも確認しないわけにはいかない。

そんな典型的な例として、出産の時の陣痛が酷かったからと、母が産んだ時から愛せないばかりか、身体的にも心理的にも虐待されて育ち、放置されていた三歳半の女の子が負っていた深傷は、正に、安心出来る家庭的な場面と、同一の担当者から親を超えそうなほどに愛されて十数年を経ることによってしか克服できないほどのものだっただろうと思われる。彼女は、健やかに育ち、少しは

藤本 曜子

の話題になったとき、「わたしもそういうのやってみたいな」と詩美ちゃんが言い出しました。イエスさまと一緒にのお祝いも嬉しかったけど、彼女が一番の主役になりたいという思いも一方であったのでしょうか。

今年はその願いがどうやら叶いそうです。アドヴェントの中で、十二月の誕生会をするようになったのです。とっても嬉しそうな彼女です。今年の十二月も素敵な月になりそうです。



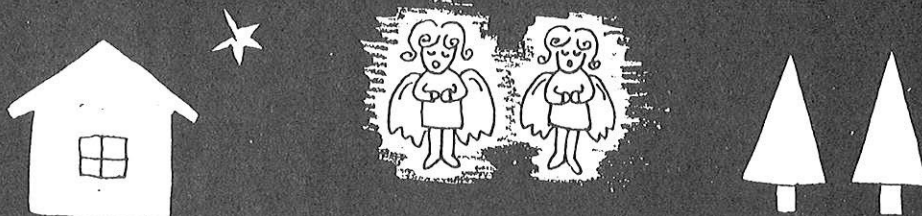
かりの思春期の揺れを経過して、今、大学への進学をめざしている。

このように治癒する力、正しくあらうとする志向、よりよく生きたいという願いを人それぞれに生まれながらに付与されているという確信を持ち、その表れるまで待ち、それによって暮らしをつくっていくことと、思うのである。それを促し、補助するものが専門家であり、人の生活に奉仕するものが科学であつたし、そうあるべきだろうと考えている。

私が信じるイエスは決して専門家ではなかったし、なろうともしなかった。人間をぶつ切りにしてかえりみない専門家たちを激しく批判し追求したのであつた。

彼は、どこでそんな知恵を学んだのかと、当時の専門家たちが訝る程専門的科学的な教育訓練など受けてはいなかった。イエスは、人々の生活現場と密着し、生活の仕組みや人間関係の基軸を変革する闘いにその生涯を費やした。彼は決して専門家などではなかったが、それをはるかに超える活動が続けたのだった。イエスの働きに彼らの立場の危うさを明白にされ不都合になった権力者や専門家たちに、極刑である十字架刑に処せられたのであつた。

Merry Christmas



日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 =

1998年 8月1日 ▶ 9月末日

6月 幼児 6名 小学生 6名 中学生 7名 高校生 11名
措置外 2名(求職者 1名 未自立 1名)
7日 加須市しずくの会(梅沢三保会長)草取りご奉仕
10日 卒園後社会的未自立の19歳が加須警察署に保護
12日 第6回 定員外職員確保のためのバザー実施
13日 卒園後の無職少年来訪し暴れる鬱憤晴らしか?
19日 日本小型自動車振興会『地域交流ホーム建設整備補助事業』補助決定通知書が届く
22日 原道小学校との連絡協議会原道小学校で開催
23日 社会的未自立の卒業生を菅野クリニックのグループホームへ 菅野ドクターのご厚意で
29日 埼玉県指導監査実施
30日 無断外泊の中三女子母宅で保護 絶対受容で
今月の物品ご寄贈者 大宮市信越ポリマー 千葉県四街道市 太田みつ 石毛あき 狭山市根本修 古河市小野田正弘 加須市島崎なぎさ 坂本わか子 町内斉藤良子 岡美子 南條トヨ子 栗橋町ヘヤーサロンすぎのの各位 心から感謝
7月
9日 越谷児童相談所角田児童福祉司来訪 中三女子と面談 心理診断を開始することを決定
12・13日 鎮守のお祭り 小学生4年生以上が参加
13日 家庭養護促進協会の岩崎美枝子氏来訪して職員研修
15日 中二男子の件で東京都立梅ヶ丘病院と協議

18日 大森優子・小川卓也結婚式を東大宮教会で 光の子どもの家食堂にて両家や友人たちの顔合わせ披露会
21日 夏休みオープニングフェスティバル
○ 新座市志木市地域の蕎麦屋さんが来訪してお蕎麦を
○ 梁水李奈入所佐藤家岩崎保母が担当
今月の物品ご寄贈者 加須市井手氏 町内丸山長義 土屋タケ 佐藤弥代子 東大宮の関根タケ 栗橋町萬屋の各位様
8月
1・2日 東大宮教会教会学校夏期学校に子ども14名参加
3日 郵政互助会様よりビデオデッキ4台とお菓子などを
5日 地域交流ホーム新築事業第1回競争入札実施
8日 ハケ岳登山をめざし小学生6名が谷本清光画伯のアトリエに2泊3日 ありがとう谷本・池端先生
12・15日 湯河原へ帰省できない子ども8名が海水浴に
○ 中三女子無断外出して母宅へ
21日 東京電力はむこ会創立40周年記念大会に参加
26日 聖学院大学のワークキャンプが2泊3日で
30日 さよなら夏休みパーティ
今月の物品ご寄贈者 加須市の梓沢あずさ 島崎なぎさ 栗原一子 栗橋町渡辺歯科医院 町内花田紀八 美容室コマ 北川辺町増田博子 はむこ会ファミリークラブ 大塚憲司 本宮隆司 菖蒲町の豊国道江 川崎市の森山登美子 北本市の向後俊一の各位 心から感謝申し上げます (くら)

/// 反 射 光 ///

☆メリークリスマス! 風が巻く園庭の裸の木々は、次の芽吹きに備えます ☆まさに世紀末☆江戸・明治の昔からの官僚国家を福祉国家は更に肥大 強固なものにします☆しかし、官僚 国家を支えてきた税の増収が、労働 人口の減少傾向などこの先見えませ ん☆得意の補助金政策も変更を迫ら れ、国民大衆に最も密接な部門であ る厚生行政が切り捨てへと傾く道理 ☆典型が介護保険☆市場原理の導入 といふことばかりを唱えています、 パイが小さくなるのに、企業利益を 確保した残りのパイが振る舞われます ☆提供するサービスの評価の第三者 機関☆まともな評価を誰が出来るの? ☆権威? 専門家? 学識経験者? et c ☆誰もそうは思えないのに、解らな いから黙して語れない☆その間に事態 は深刻に進行する☆最も力のない者 たちは新世紀どうなるのか☆その上、 隅に押しやられてきた監視や圧力団 体になる家族を持たない子どもたちの 運命は? ☆真の意味で福祉の原点を 今こそ! ☆重ねてのご支援を! (哲)